

2013年5月16日
富士ゼロックス株式会社

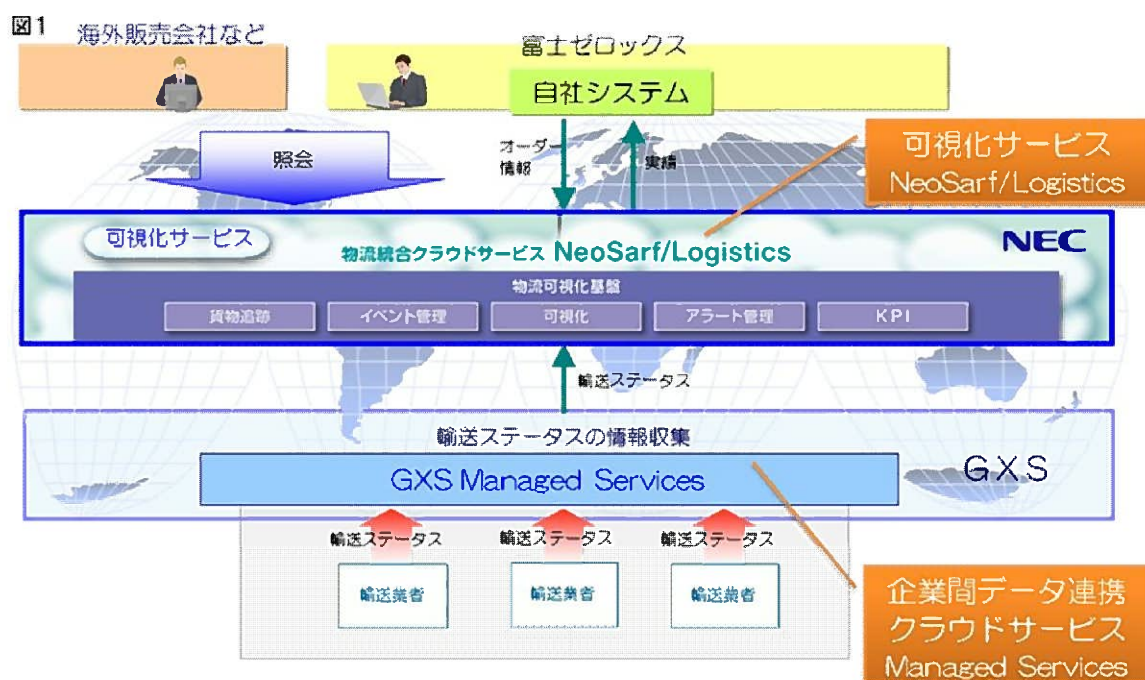
貿易業務に関するノウハウを生かして

グローバルな商品の輸送状況を クラウド上で可視化するシステムを構築

NECとGXSのクラウドサービスを活用

富士フィルムグループの富士ゼロックス株式会社（本社：東京都港区、社長：山本忠人）は、当社の貿易業務に関するノウハウ*と、日本電気株式会社（本社：東京都港区、社長：遠藤信博氏：以下NEC）の物流統合クラウドサービス「NeoSarf/Logistics」、GXS株式会社（本社：東京都港区、社長：田中良幸氏：以下GXS）のグローバル対応企業間データ連携クラウドサービス「GXS Managed Services」を組み合わせて、グローバルな商品の輸送状況を可視化するシステムを構築いたしました（図1）。

当社は、2月から日本と中国間の輸送品を対象にこのシステムの運用を開始し、このほど中国と北米・欧州間に拡大いたしました。



富士ゼロックスは、中国や日本国内でデジタル複合機やプリンターなどを生産し、日本・アジアパシフィック各国で販売、北米・欧州などに輸出しています。これまで、海外の販売会社等から多数の緊急な納期間合せに対して、工場や各輸送業者に都度確認し回答していました。また、海外の販売会社においては、万一の輸送遅延に備えて多めの在庫を確保していました。

今回構築したシステムは、1,600社以上の輸送業者との接続実績のある企業間データ連携クラウドサービス「GXS Managed Services」を利用して収集した約40社の輸送業者の輸送ステータスを「NeoSarf/Logistics」のデータベースに登録することで、物流に関わるどの部門（販売会社、需給部門、生産拠点など）の管理番号で検索しても、輸送中商品の現在ステータスを把握可能としました。

これにより当社は、リードタイムが長い国際輸送においても、きめ細やかな管理ができるようになり、納期間合せへの回答の迅速化や、在庫の削減、洋上にある商品へのオーダー引当、さらには生産計画精度の向上など、需給コントロールの強化を実現します。

*富士ゼロックスは、業務を通して培った貿易業務全般およびドキュメント管理のノウハウを最大限に活用した貿易帳票管理ソリューションによって、貿易業務のリードタイム短縮、コスト削減、業務プロセス最適化、関税法改正対応、税関の電子化・ペーパーレス化推進への対応、貿易関係帳票の電子原本化等のお客様の課題解決に貢献しています。

今回構築したシステムも、NECとGXSのクラウドサービスを組み合わせ、当社が本ソリューションで培った貿易業務全般にわたるノウハウを活用して構築しました。